

Application for Participation
Associated Schools Project(ASP) for Promotion International Education

“過去・現在・未来” ずっとつなごう ぼくらの天伯自慢
～ 地域に誇りと愛着をもつ子の育成 ～

1 Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校では、これまで豊かな自然とともに、開拓された土地に盛んに行われている農業を教材にした教育活動を地域の協力を得ながら実践してきた。そこで、さらに地域をみつめ、先人の努力や知恵にふれることで、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進しようと考えた。

平成23年には、キャリア教育、食育、環境教育の研究を全教職員で行い、教科・領域との関連性を明らかにしたカリキュラム(ESDカレンダー)づくりを行った。また、平成24年には、各学年の地域教材の価値とねらいを再確認するとともに、さらに地域との関連性や地域の特色を自覚できるように単元を構想した。

特に、開拓のシンボルでもあり、「天伯」の名が市内外にも知れ渡ることになった「天伯スイカ作り」と、親子3代に渡って伝承されている「米作り」「親子餅つき会」を通して、地域の農業に視点を当てていきたい。また、シラタマホシクサやハッチョウトンボなど希少な動植物が生息しているにもかかわらず、その存在と価値を広く知られていない「天伯湿原」を取り上げることで、環境問題に視点をあてるとともに、持続可能な開発のための教育(ESD)のプロジェクトを立ち上げることにした。

地域や家庭、学校が連携・協力して取り組む学習活動を計画的に実践していくことで、将来にわたって自分の地域のよさに気づき、地域の誇りと愛着をはぐくんでいく子どもが育つと考えている。

2 Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、ESDで育みたい力を「環境保全」と「地域の歴史と産業」の観点から、地域の人とのつながりを深めて、持続可能な社会づくりの担い手を育てていきたい。自分たちの地域の環境や歴史を調べることで、今日的課題を自分のものとして把握し、解決に向けて自ら動き出せる子どもの育成を目指したい。地域に誇りをもち、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動力をESDで培っていきたい。

そのために本校では、以下の4つの活動で次のような目標を掲げる。

(1) 地域の産業である農業体験

- ・ 親子で米作りに取り組み、地域の方を招いて行う「親子餅つき大会」
- ・ 天伯スイカについて調べ、地域に発信する活動

地域の大人に学びながら、米作りやスイカ作りに取り組むことで、それに携わる人の努力と情熱にふれ、地域の産業のすばらしさに気づく。

(2) 「天伯湿原」「八田平川」の環境保全活動

- ・ 天伯湿原の生態系の調査と保全活動
- ・ 地域に流れる八田平川と豊川、朝倉川の環境(生態系、水質等)の比較調査
- ・ 八田平川の530運動、EM菌を活用した水質改善活動

天伯の自然環境と他地域の環境を比較・調査をしながら、環境保全の大切さに気づき、地域に向かって環境美化と保全の意識を発信する。

(3) 地域の歴史や人にふれる活動

- ・ 開拓の歴史を地域の老人に聞く活動
- ・ 福祉施設の老人や保育園の園児との交流活動
- ・ お世話になった方を招いて行う感謝の会

地域のお年寄りや、各施設の人との交流を通して、地域の歴史や暮らし、福祉についての現状を知り、より心豊かな社会へとつながる活動を創造しながら、地域の一員としての自覚をもつ。

(4) 行事などを関連づけた活動

- ・ 運動会、学習発表会、授業参観（年間4回）、地域の福祉施設との交流会、親子餅つき大会
児童、保護者、教職員、地域住民が一体となって成果を発表する機会をもつことで、地域の誇りや地域への愛着心を育み、人との関わり、つながりを重視していく姿勢を養う。

3 Execution（プロジェクトの実施）

本校では、前述のとおり、ESDで育みたい力を「環境保全」と「地域の歴史と産業」の観点から学習を進めている。学習を深めていくことで、地域の人とのつながりが生まれ、持続可能な社会づくりの担い手を育むことができると考えている。

天伯校区の歴史は、戦後行われた「天伯が原」の開拓者の入植から始まる。荒地を農地に変えてきた先人の努力は脈々と受け継がれ、戦後70年たった今も農業は地域の中心的な産業となっている。また、地域を流れる八田平川や清らかな伏流水が湧き出ている天伯湿原を地域の手で保全しようと、各種団体が取り組みを続けている。自分たちの地域の環境や歴史を調べる学習を軸とすることで、地域に誇りを持ち、持続可能な社会をつくる資質や能力の基礎的な部分を育てることであると考えている。

○各学年と地域との関わり

- ・ 1年生・・・天伯保育園との交流会
- ・ 2年生・・・八田平川の生き物探検
- ・ 3年生・・・天伯スイカ作り
- ・ 4年生・・・八田平川の水質検査と環境保全、天伯湿原の環境保全
- ・ 5年生・・・米作り、親子餅つき会、感謝の会
- ・ 6年生・・・福祉施設との交流会

○地域の産業である農業体験

- ・ 1～4年生・・・野菜作り（3年生・・・天伯スイカ作り）
- ・ 5～6年生・・・米作り

○「天伯湿原」「八田平川」の環境保全活動

- ・ 全学年・・・530運動
- ・ 4年生・・・八田平川の530運動、EM菌を活用した水質改善活動、環境調査（生態系、水質等）
天伯湿原の生態系の調査と保全活動

○地域の歴史や人にふれる活動

- ・ 全学年・・・地域の人に学ぶ会、感謝の会
- ・ 1年生・・・保育園の園児との交流活動
- ・ 6年生・・・戦争体験、地域の歴史を聞く会、福祉施設の老人との交流活動

○行事などを関連づけた活動

- ・ 成果の発表や披露のための活動

(1) 活動を進めるための ESD アクティビティプログラム (4年生の例)

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会	ごみの処理と利用		水はどこから								
理科	季節と生き物(春)		季節と生き物(夏)		季節と生き物(秋)			季節と生き物(冬) 自然の中の水			
総合		生物・水質検査 朝倉川と比較調査				EM菌水 質保全					
行事		530運 動					学習発 表会		感謝の 会		

(2) 地域の産業である農業体験



聞き取り、スイカ作りに挑戦する



PTA の協力で、実習田にて田植えを行う5, 6年生

(3) 「天伯湿原」「八田平川」の環境保全活動



八田平川の水質検査と環境保全推進



天伯湿原の調査と環境保全活動推進

(4) 地域の歴史や人にふれる活動



地域のお年寄りから、天伯の歴史とスイカ作りの情熱についてお話を聞く会



実習田で収穫した餅米をつかった親子餅つき会とお世話になった方を招いて感謝の会

4 Type of material to be used (使用する教材)

「小学校 キャリア教育の手引き」 文部科学省 2010

「かがやくとよはし」 豊橋市教育委員会 2012

「郷土誌 天伯」 豊橋市立天伯小学校 2004

「キャリア教育ノート」 夢を見つけ夢をかなえる航海ノート 愛知県教育委員会 2012

「環境教育指導資料」 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2007

5 Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する児童の理解と姿勢の評価)

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・ 児童の様々な活動への取り組みの成果を学習記録や、レポート、小論文から把握する。
- ・ 学習や活動のまとめとして、学習発表会や通信などで地域や家庭に発信する意欲、態度を観察して評価する。

上記の評価とともに、さらに下記のことを実践して、ESD 活動のさらなる充実を図る。

- ・ 12月に、学校評価アンケートで、保護者、児童、教職員を対象に「地域の特性を取り入れた学習」「地域に愛着と誇りを感じる意識調査」などの項目について、学習への取り組みを調査する。
- ・ 2月に、児童の実態や地域の特色にそったカリキュラムになるように、次年度の学習活動の改善・方針を全教職員で検討する協議会を設ける。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated School Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコ ASP の参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそって ASP に貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年 ASP コーディネーター (※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会) に活動のレポートを提出します。)

24/ 1 / 2014

Date(日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

校長, 豊橋市立天伯小学校

Position, (校長) Institutions name (学校名)